

学校 教育 目標	『手を取りあい ぐんぐんのびる しんめの子』 ○問題意識をもち、解決に向けて粘り強く取り組む子を育てます。(知) ○善悪を判断する力と、思いやりの心をもって行動する子を育てます。(徳) ○規則正しい生活をし、健やかな体づくりに自ら取り組む子を育てます。(体) ○洋光台のひと・もの・まちを大切に、共に生きる子を育てます。(公) ○様々な人との関わりを通じて、社会への視野を広げる子を育てます。(開)				
学校 概要	創立 52 周年	学校長 山田 太一	副校長 亀田 泰紀	2 学期制	一般学級：10 個別支援学級：2
	児童生徒数： 255 人	主な関係校： 洋光台第二中学校 洋光台第二小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○自分づくりに関する力 ○地域と関わり合いながら、洋光台のまち を大切にできる態度 ○他人の気持ちを考えて行動する力を育 み、自尊感情を高めていく力 ○楽しく学習に取り組む力	洋光台第二中学 校 洋光台第二小学 校 洋光台第四小学 校	認め合い、学びあい、心身共に健やかで、社会に生きる子ども ・道徳教育や人権教育を通じた自尊感情や自己有用感を高める教育の実践。 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指導法改善や授業研究の取組。 ・9年間の成長を見通した児童生徒指導や特別支援教育の情報交換の実行。

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりを大切に児童理解と問題解決の学習を基盤に据えた学びの充実を図ります。 ・基本的生活習慣を身に付け、規則正しい生活ができる子の育成を図ります。 ・日々の学級活動や学習を通して、自己有用感や所属感、自己達成感の育成を図ります。 ・縦割り活動やグループ活動を通して、自他を尊重する子の育成を図ります。 ・自ら学習課題を掴み、生活経験や既習事項を生かした問題解決の学習の推進を図ります。 ・地域の中で生活している自分を知り、積極的に地域に関わろうとする子の育成を図ります。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業づくり	・児童一人一人へのアセスメントを活用して、学級集団を適切に把握し、それに基づいた学級集団作りを行い、子どもたちが主体的・対話的で深い学びにつながっていけるよう支援を行う。 ・大学や専門家と連携し、教職員のスキルアップを狙いとした研修を計画的に行うことで、それぞれの授業づくりの改善につなげる。
徳	人権・道徳教育	①豊かな心の育成を目指し、道徳教育や人権教育を柱とした教育活動を年間通して行う。自分の行動の善し悪しを適切に判断し、行動できる子や自分からあいさつをしたり、相手の気持ちを考えて行動したりする子の育成を推進する。 ②Y-Pアセスメントを積極的に活用し、居心地の良い学級・学校作りに生かしていく。児童の人権感覚や人権意識の向上を図るため、子どもの社会的スキル横浜プログラムを選び実践していく。
体	健康教育	①「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した規則正しい生活をする姿勢を培うと共に、保護者・家庭と連携して、食育や体力向上を推進していく。 ②体育や保健の授業、委員会活動や集会活動等を通して、体を動かす楽しさや意味を理解し自ら取り組めるようにする。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①縦割り活動を軸に他学年との関わりを深めることで自分の1年後、2年後の姿を具体的に想像することができるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。個に応じたためあてを設定できるように支援する。
いじめへの対応		①ブロック・学年研を通じ、児童情報共有を適宜行い支援策について組織的に対応する。②いじめ防止対策委員会や児童理解研修を通して、児童への支援の見立てや、いじめの未然予防、初期対応、再発防止の視点への感度をあげていく。③児童が安心して悩みを相談できる教職員の育成のため、メンター研を活用し、傾聴研修・危機管理研修を実施する。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①チーム洋四として、学校づくりを行っていくために、学級づくりを他教員と協働して行うようにする。②授業づくりについては、任意組織をつくりキャリア関係なく授業改善に向けて、新たなチャレンジを協働して行っていく。③重点研究会を軸に、教職員の同僚性を向上していくために、教職員同士の対話の時間を確保していく。
地域学校協働活動		①学校運営協議会の助言や評価を基に、教育活動や学校運営の改善を計画的に図り、協議会との連携をより一層図る。 ②引き続き、学校・地域コーディネーターと連携し、児童や教職員がまちや地域の方と関わる学習活動の充実を図る。 ③地域と共に生きる学校を目指し、行事や各学年の生活科・総合的な学習の時間などを中心として、学校・地域コーディネーターと連携しながら地域の方と関わる機会を増やしていく、地域への愛着の心を育て、地域の一員であるという心情を育む。
特別支援教育		①インクルーシブ教育に基づいて、だれもが学びやすい教育環境を構築するために、ユニバーサルデザインを活用した学習環境づくりに努める。②様々な理由で、授業に参加できない状況がないか、常に教育活動を見直し、子どもの思いに寄り添いながら誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように、特別支援教室を中心に取り組む。ICTの効果的な活用についても、全教職員で検討し、共有する。③特別支援コーディネーターが核となり、配慮を要する子どもの対応にチームとして対応すると共に、外部機関との連携を図る。
児童指導		①学校の決まりが現在の社会状況や児童の実態に沿うものであるか定期的に検討し、児童にとって安心な学校生活を送る指針となるようにする。②職員会議などで児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。③YPアセスメントを活用し、多面的な児童理解と具体的なしえん・指導を実践する。④登校に不安のある児童の支援のあり方を組織を通して検討し、一人一人にあった学びの環境を検討していく。児童や保護者の安心につながる支援する。⑤たてわり活動を中心とした学年交流を継続し、豊かな人間関係が築けるよう支援する。
情報教育		①子どもの発達段階に応じた情報教育の系統表の見直し・作成を行う。 ②タブレット端末等の情報機器を使う際の留意点や正しい使い方について、学年の発達段階を考慮しながら系統的に指導を行い、子どもたちが安全に正しく情報機器を活用できるようにする。 ③子どもたちが情報機器を扱う際のメリットとデメリットについて正しく理解し、発達段階に応じて情報機器を取捨選択して活用できるようにしていく。 ④オンラインドリルのメリット・デメリットを確認し、子どもたちの学習効果に最大限寄与できるように、情報を整理する。